

気候情報

2004年1月の日本の天候

少雨・多照 (東日本, 西日本)

1月の天気概況

短い周期で低気圧や気圧の谷が日本付近を通過し、発達した低気圧や寒気の影響で東・西日本の日本海側や北日本では暴風や大雪の大荒れの天気となる日があった。東・西日本の太平洋側では低気圧の影響は小さく、降水量が平年を大きく下回るところがあった。また、前半は気温の高いところが多かったものの、中旬後半から下旬前半にかけては強い寒気が東日本以西に入り、気温の低い日が続いた。

上旬:前半は、気圧の谷の通過後に一時寒気が入ったものの冬型の気圧配置は弱く、気温は高めを経過した。後半は、7日から8日にかけては日本海の低気圧が北海道付近を急速に発達しながら通過し、北日本で大荒れの天気となった。また、低気圧の通過後には北・東日本中心に寒気が入った。**旬平均気温**は、北日本で平年並のほかは高かった。**旬降水量**は、北日本の日本海側で多く、北日本の太平洋側で平年並だったほかは少なかった。**旬日照時間**は、全国的に多かった。

中旬:前半は、短い周期で低気圧が日本付近を通過し、特に14日は動きの遅い低気圧が北海道の東海上で発達したため北日本は大荒れの天気となった。後半は、南岸や北日本を気圧の谷が短い周期で通過し、東日本の太平洋側でも雪が降った。低気圧の通過後には冬型の気圧配置となったものの、寒気の南下は低気圧に近かった北日本では弱く、東日本で強かった。**旬平均気温**は、北日本の太平洋側と南西諸島で高かったほかは平年並だった。**旬降水量**は、東日本の日本海側で少ないほかは多かった。**旬日照時間**は、北日本の太平洋側で少ないほかは平年並だった。

下旬:21日から22日にかけて低気圧が発達しながら日本付近を通過し、各地で大荒れの天気となった。低気圧通過後には強い寒気が入って冬型の気圧配置の日が続き、南西諸島で低温、西日本で低温・大雪となったが、旬末には西日本から次第に冬型の気圧配置が緩み、気温が平年を上回るようになった。**旬平均気温**は、北日本で高く、東日本で平年並だったが、西日本と南西諸島ではかなり低かった。**旬降水量**は、北・東日本の日本海側で多く、北日本の太平洋側は平年並、その他の地方は少なかった。**旬日照時間**は、北日本の太平洋側、南西諸島で少なく、北日本・東日本の日本海側は平年並、その他の地方は多かった。

1月の気候統計

平均気温:北日本で平年を上回り、東日本の一部で平年を上回ったところがあった。特に北海道、東北北部では平年を1℃以上上回ったところがあった。一方、西日本、南西諸島では平年を下回ったところが多かった。宇和島(愛媛県)では、月平均気温の最低値を記録した。

降水量:東日本、西日本、南西諸島で平年を下回っ

た。大島(東京都)、広島(広島県)、岡山(岡山県)、姫路(兵庫県)、厳原(長崎県)の5地点で1月の月降水量の最小値を記録した。また、前橋(群馬県)では1月の月降水量が0 mmであり、これまでの記録とタイ記録となった。前橋で、1月の月降水量が0 mmとなったのは、1982年、1976年、1942年であり今年で4回目である。一方、北日本で平年を上回ったところがあった。紋別(北海道)で、月降水量の最大値を記録した。

日照時間:北海道のオホーツク海側と太平洋側、東北の一部、南西諸島で平年を下回ったほかは平年を上回り、平年の120%を超えたところもあった。四日市(三重県)、鳥取(鳥取県)で、1月の月間日照時間の最大値を記録した。

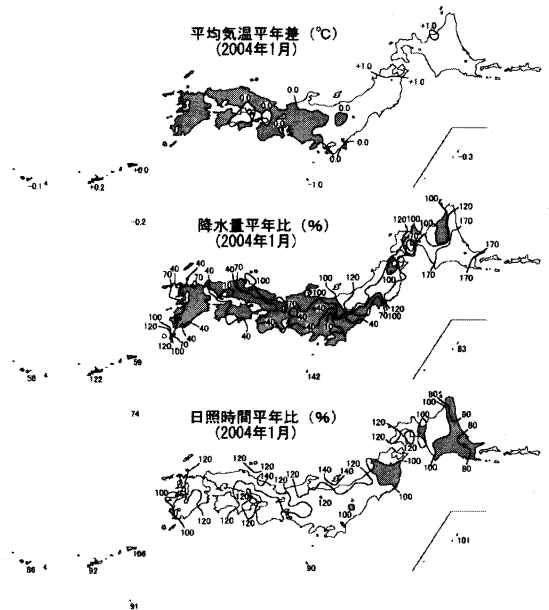
積雪・降雪:降雪の深さ合計・最深積雪ともに北海道の東部、東北の一部で平年を上回るところがあったほかは平年並だった。

(気象庁観測部統計室)

1月の記録(1位更新のみ)

- ・月平均気温低い方から(℃)
 - 宇和島 5.8
- ・月降水量の多い方から(mm)
 - 紋別 131.0
- ・月降水量の少ない方から(mm)
 - 大島 33.0 広島 3.5 岡山 2.5
 - 姫路 3.5 厳原 28.5 前橋 0.0 (タイ記録)
- ・月間日照時間の多いほうから(時間)
 - 四日市 192.0 鳥取 102.8

2004年1月の平年差(比)図



注) 陰影の部分は、平年より低い(少ない)地域を示す